

高校英語教員対象セミナー

大学受験や進学後に繋げる TOEIC® Programの活用事例

2022年8月4日(木) オンライン開催

事例発表

近高英語教育の充実と TOEIC® Programの活用

近畿大学附属高等学校

グローバル教育室室長(高大一貫英語教育主任) 英語特化コース2年生担任

古川 英明 氏



■ 英語教育と授業の核は、 Students CenteredとCLT

本校は77クラス、約2,900名の生徒が在籍する西日本で一番大きな高等学校であり、中学校も附設された大規模校です。未来志向の「実学教育」と「人格の陶冶」を建学の精神とし、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人になるう」を校訓としています。これらに則り日々の教育活動を推進しています。本校の英語特化コースにおいて、2024年度より先進的な国際教育プログラムである国際バカロレアクラス(IBクラス)が設置されることから、急速に進展するグローバル化に応じて、建学の精神や校訓の具現化に努めていることがお分かりいただけたと思います。

私はグローバル教育室の責任者を務めるとともに、英語特化コースの担任として生徒たちと共に楽しく学びに満ちた毎日を過ごしています。

本校における英語教育の核となる考え方は、“Not Teachers Centered But Students Centered”です。教員が中心ではなく、生徒が中心となりうる英語教育を念頭に置き、改革を進めてきました。加えて、CLT(Communicative Language Teaching)、つまり教員と生徒、あるいは生徒同士のコミュニケーションをベースにした英語教育を目指し、資料1に示す5つのポイントに基づき授業を展開しています。

(資料1)

近畿大学

ではどんな授業?

Students Centered & CLT(Communicative Language Teaching)!

- Second Language Acquisitionの理論に沿った授業構築
【Guided Discovery: 生徒の気づきのプロセスに教員が関与する】
- コンテキストを一貫させた授業設計・授業を生徒が間違えられる安心安全の場
【ContextとLearning OutcomesにブレがなくLove your mistakes!な授業】
- Reduce TTT(Teacher Talk Time)&More STT(Student Talk Time)
【講義のみによる生徒の記憶度は5%! 生徒の発言内容によって理解度を測る】
- ペアワーク・グループワークでタスクに取り組むことが授業のメイン
【クラスメイトと協力してタスクを進めるため遅れない・サボらない】
- 授業・家庭学習でのOutputを観察し評価する工夫 (遅々は評価できる力を高め続けなければ)
【Writing/Presentations/Vlogs...生徒の真のニーズに応える英語教育・学習!】

1つ目に、第二言語習得の理論に沿った授業の構築です。例えば文法指導という観点では、教員主導による文法訳読式の授業はかなり以前から脱却の必要性が叫ばれてきました。現在主流になるべきは「Guided Discovery」、つまり生徒自身の気づきを導き、学びへと向かわせる方法であり、そのための工夫を凝らした授業構築を行っています。

2つ目は、コンテキストの一貫性を維持することと、生徒が間違えることを恐れない環境づくりです。「帯活動」と言われる、最初の10分間とその後でそれぞれ別のことをするような授業は効率が悪く、教育的効果も低いとされることを踏まえ、目標と結果にブレのない一貫性のある授業を目指しています。また、言語学習は失敗からスタートするものですから、“Love your mistakes! Anything OK!”と繰り返し生徒たちに伝え、授業の中で失敗でき、その失敗を認め合い成長し合える授業づくりに努めています。

3つ目が、Reduce TTT(Teacher Talk Time)&More STT(Student Talk Time)です。教員の講義を聞くだけでは、生徒の学びとして残る記憶は5%に過ぎないというデータがあります。教員が話す時間を可能な限り減らし、生徒が話す時間を可能な限り増やすことで、生徒に多くの記憶と学びを残したいと考えています。

4つ目に、それを踏まえ、生徒同士のペアワーク、グループワークでタスクに取り組むことを授業のメインにしています。これこそがまさにCLTの長所であり、生徒たちが真剣に授業に取り組む姿勢につながっています。

5つ目として、生徒たちのOutputによって理解度を測り、評価をする工夫です。ライティングやプレゼンテーション、ビデオブログ(Vlog)など、多くのOutputの機会を提供し評価をしています。教員は、これら生徒のOutputを客観的に評価する力量を高めるための努力と研鑽を積み重ねなければなりません。新学習指導要領で求められている3つの観点(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・主体性」と)のバランスを見極めながら、生徒たちによるOutputを主体にした真のニーズに応える英語教育・学習を提供して

います。

Output主体の英語の授業を展開するうえで、大学入試が障壁として存在しない環境はプラスに働いていると言えるでしょう。しかしながら、CLT中心では大学入試に対応できないと教員が早計に判断することには大いに疑問が残ります。むしろCLT中心の授業が生徒の主体性ととも大学入試に対応する能力も伸ばすという研究結果も存在しているからです。

■ 内部進学制度でTOEIC® Programを活用

本校では例年、高校3年生の約6割が内部進学制度で近畿大学附属特別推薦入試を受験し、近畿大学へ進学しています。

内部進学制度における出願資格は、学業成績によるものと、資格・検定試験によるものとの大きく分けて2本の柱があり、この資格・検定試験においてTOEIC® Programは重要な役割を果たしています。

資格・検定試験によって出願資格を満たすには、各資格・検定試験で合計3点以上取得という基準を定めています。TOEIC Programを例に紹介すると、TOEIC Bridge® Listening & Reading Tests (以下、TOEIC Bridge L&R) とTOEIC Bridge® Speaking & Writing Tests (以下、TOEIC Bridge S&W) の合計スコアが163点以上であれば3点、127点以上であれば1点と設定しています。また、TOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC L&R) とTOEIC® Speaking & Writing Tests (以下、TOEIC S&W) の合計スコアが550点以上であれば3点、470点以上であれば1点としています。

TOEIC Bridge® Tests (TOEIC Bridge L&RとTOEIC Bridge S&W) については、先ほどの合計127点以上というのが出願以前の校内選考の段階で原則必須要件ですが、生徒の昨今の得点到達の高まりや、継続的な学習へのモチベーション維持という観点から、合計153点到達を目指す新機軸の目標設定も打ち出しています。

本校のTOEIC Bridge Testsの実施回数と今後の予定は資料2の通りです。

これまで、高校1年生は入学から約1年後の3月に1回だけ受験してきましたが、入学後早い段階での初受験によるインパクトは大きいという予測判断のもと、高校1年生の8月に受験できるようにしました。卒業するまでに合計5回の受験をすることになります。

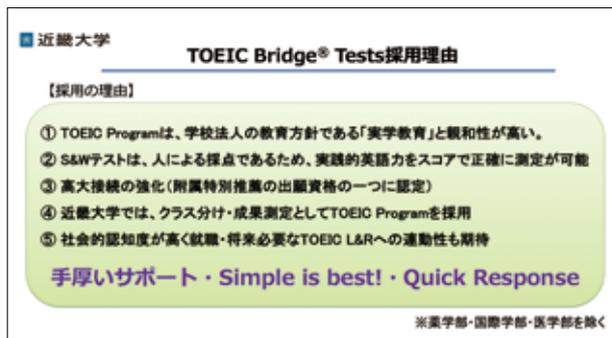
(資料 2)



■ なぜTOEIC Bridge® Testsを採用したか

TOEIC Bridge Testsの採用理由には、本学教育方針との親和性、人による採点を通した英語実践力の測定 (TOEIC Bridge S&W)、高大接続の強化、近畿大学での教育プログラムの全学的利用・採用との合理性、就職活動などへの連動など、多くの利点が挙げられます (資料 3)。

(資料 3)



個人的にはIIBCの手厚いサポート、シンプルな試験、素早いスコア返却がメリットだと感じています。教員の負担が他の資格・検定試験と比較すると非常に軽く、大人数で受験する場合は試験官派遣費用も頭割りによって大きく軽減されます。

また、試験そのものもシンプルかつ短時間で取り組みやすいものになっており、初級、中級レベルの生徒の英語4技能の力を正確に測ることができます。

そしてレスポンスも早く、TOEIC Bridge L&RはIIBCに資料到着後翌営業日に、TOEIC Bridge S&Wでも試験終了11営業日以内でデータによるスコア返却がなされ、生徒の印象に残っているうちにフィードバックができます。

■ 継続した努力がスコアに反映

TOEIC Bridge Testsのスコア成績推移をみると、現在の近畿大学1年生は、高校2年前期で126.5点、後期で135.8点、3年前期で135.7点でした。現高校3年生についても1年後期では112.3点、2年前期で118.2点、2年後期で132.4点とおしなべて得点を上昇させていると言えます。例年、高校2年の3月で大きく伸びる傾向があるようです。

TOEIC Bridge Testsで高得点を取れるようになってきた生徒たちは高みを目指して、TOEIC L&RやTOEIC S&Wにも自主的に挑戦していきます。本校の特別推薦入試制度には特待生制度があり、TOEIC L&RとTOEIC S&Wで合計680点以上を取得すると入学料免除、830点以上取得の場合は入学料に加えて授業料も全額免除になります。

本校では7月と12月の年2回、前期と後期で1回ずつTOEIC L&RとTOEIC S&Wの受験機会を設けています。特待生制度の基準スコアを満たしている生徒の割合は資料4をご覧ください。

(資料4)

特待生制度		入学料・授業料の全額免除		入学料免除	
資格・検定試験	TOEIC L&R/S&W 4種総合スコア	準1級以上	830点以上	2級	680点以上

卒業まで(一生)、語学学修を継続!

TOEIC® Testsスコアによる特待生候補人数 (授業料免除基準: TOEIC Tests830点以上)								
年度	受験者数	TOEIC L&R平均	600点以上	TOEIC Speaking平均	110点以上	TOEIC Writing平均	120点以上	
2020年前期	319	412.1	33	68	95	10	112.5	32
2020年後期	422	432.1	48	129	84.5	21	106.8	50
2021年前期	330	442.5	66	307	91.1	95	106.2	123
2021年後期	290	458.9	46	239	102.1	110	121.4	163

※受験者の重複データあり ※後期は英語特化コースは全員受験

2020年度から昨年度においては実施1回あたりのTOEIC L&R受験者数は290～422人、TOEIC S&Wは68～307人でした。昨年度からTOEIC S&Wが特待生の基準に含まれるようになり、その前後を比較すると受験者数は129人から307人と急増しています。

こうした受験者数の増加に加え、全額免除となる特待生に値するスコア(830点)を取得する生徒の割合の高まりも示されています。基準である830点をL&Rで600点、Speakingを110点、Writingを120点と分割して考えてみると、例えばWritingの場合、2021年前期の受験者数307名のうち、120点以上は123名と約40%でしたが、同年後期の受験者数239名のうち、120点以上は163名となんと約70%まで上昇しました。多くの生徒がこのTOEIC Tests(TOEIC L&RとTOEIC S&W)のスコア取得に向けて努力を続けたことが分かります。

資料5は現高校3年生のTOEIC Bridge S&Wのスコア成績推移です。高校1年生3月のTOEIC Bridge S&W初受験時のスコアに基づき、全受験者を高得点層から50名ずつ降順に並び替えています。初受験時スコアの最上位層をグループ1、最下位層をグループ10としてまとめ、各層の2年生の8月および3月の試験におけるスコアの変遷を表しています。

(資料5)

近畿大学 現3年生 TOEIC Bridge® S&Wスコアの成績推移										
※1st: 1年生3月、2nd: 2年生8月、3rd: 2年生3月										
Group	受験者数	1st Speaking	1st Writing	1st Total	2nd Speaking	2nd Writing	2nd Total	3rd Speaking	3rd Writing	3rd Total
1	50	36.4	46.6	83.1	37.9	43.6	81.5	38.6	46.9	85.4
2	50	31.6	44.0	75.5	35.1	38.9	74.1	36.2	46.0	82.2
3	50	28.4	42.6	71.0	33.0	38.3	71.3	33.4	44.8	78.3
4	50	28.0	38.7	66.6	30.8	36.5	67.3	33.4	43.9	77.3
5	50	25.7	36.5	62.2	31.2	34.0	65.2	32.3	43.6	75.9
6	50	25.4	32.8	58.2	30.4	31.5	61.9	32.9	40.8	73.8
7	50	23.0	30.8	53.8	30.0	34.0	64.0	32.3	40.4	72.8
8	50	21.7	27.8	49.5	28.9	34.0	62.9	31.7	39.6	71.3
9	50	20.4	23.0	43.4	27.2	31.5	58.7	30.7	38.3	69.0
10	55	17.0	17.5	34.4	21.2	22.0	43.2	24.7	30.7	55.4
合計	505	25.7	33.9	59.5	30.3	33.4	63.7	32.2	41.3	75.0

※1stのTestスコア降順に並べ、よから1、2、3・・・と50名ずつ振り分け(50名区切りの境界線上の両点者は機械的に人数ベースで区切る)

すべてのグループで上昇傾向があるものの、注目すべきはグループ7から10における伸びしろです。これらのグループは20点前後の伸びが見られ、ボトムアップに成功しています。英語が苦手だった生徒たちが英語を諦めることなくOutputに取り組み続けてきた成果であり、全体としてのスコア上昇に大きく貢献しているのです。

■ なぜ生徒が伸びるか?

こうしたスコア上昇の理由として、授業などで何か集中的な対策をしていると思われるかもしれませんが、むしろ、授業内での対策はなるべく行わないようにしています。テスト対策は往々にして「Teachers Centered」の授業になりがちですし、生徒自らがすすんでテスト対策に取り組んでほしいという願いから、あえて対策を避けています。

CLT中心の授業に取り組んでからは、授業で寝ている生徒を本当に見なくなり、授業アンケートでも96%もの生徒が「英語の授業を真剣に受けている」と答えています。楽しみながらも真剣に英語の学びを深められるような授業を積み重ねることが、生徒の伸びへの近道だと言えるでしょう。

事例発表

“えどとり”の英語教育の取り組みと TOEIC® Programの関わり

江戸川学園取手中・高等学校
英語科教科副部長

清水 僚太 氏



■ 医科、東大、難関大の3コースを設置する 「規律ある進学校」

本校は茨城県取手市に所在し、1978年の創立以来「生徒の夢は学校の目標」というスローガンを掲げ、規律ある進学校として心力と学力と体力のバランスのとれた教育を目指しています。大きな特徴として、医科、東大、難関大という志望大学に特化した3コース制があります。医科コースは医学部に入り医師になることを目指し、学力育成だけでなく、医師としてふさわしい知識と心構えを得るため現役医師や医学部教授の出張講義を実施する他、高等部では協働の姿勢と研究の素地を養うメディカルサイエンスという独自科目もあります。東大コースは東京大学合格を目指し、ハイレベルな授業を通じて奥深い思考力や優れた洞察力を養います。幅広い分野への興味関心を持った生徒が集まっており、科学コンテストなどの教育活動にも積極的に参加しています。在籍人数最多は難関大コースで、国公立大学、難関大学合格を目指します。多種多様な入試形態、進路に対応し、個々の能力を伸ばす柔軟な教育を実践しています。

本校の英語教育、国際教育における目標の一つに「世界型人材の育成」を掲げています。多様な価値観に対応できるグローバル人材を育成するべく、英語力だけでなくコミュニケーション能力や主体性、異文化理解力、挑戦する力の育成に主眼を置いています。また、現在コロナ禍で中止していますが、高等部2年生のカナダ修学旅行や、短期留学、カンボジアやベトナムでのSDGsスタディツアーといった国際教育プログラムもあります。

■ TOEIC® Programの導入背景

本校では中等部3年生を中心にTOEIC Bridge® Listening & Reading Tests (以下、TOEIC Bridge L&R)、高等部生を対象にTOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC L&R)を実施しています。TOEIC® Programを採用した理由

の一つは、大学入試における英語外部検定利用入試の広まりを踏まえ、校内実施の検定試験の種類を増やすためでした。また、団体特別受験制度 (IP : Institutional Program、以下IPテスト)であれば、他の検定試験と比べても受験料を安く抑えて受験者側の費用負担を軽減でき、受験しやすいという理由もありました。加えて、大学入学共通テストとの出題形式の類似性が高く、共通テスト対策としても有効だと判断したためでもあります。

■ 中等部3年生にTOEIC Bridge® L&Rを 軸として指導

本校のTOEIC Bridge L&Rの活用は資料1の通りです。

(資料1)

本校におけるTOEIC Bridge® L&Rの活用

- ・高校入学時のクラス分け試験(3月)で、TOEIC Bridge L&Rを活用。
- ・中3生に対しては、英語学習の到達目標として、クラス分け試験を見据えさせ、TOEIC Bridge L&Rを軸とした指導を展開。
- ・TOEIC Bridge L&Rを夏期学習会のプログラムの1つとして組み込む。
- ・中3夏時点でのスコアをもとに、クラス分け試験での目標スコアを設定させ、目標に到達するために、3月までの8か月間で何をすべきか考えさせ、英語学習に対する動機付けを図る。
- ・冬休み前(12月)にも、TOEIC Bridge L&Rを実施し、目標到達点までの途中経過を確認。
- ・TOEIC Bridge L&Rの公式問題集も原則全員が購入。
- 2学期末試験後は、授業の中でも扱い、クラス分け試験に備える。

まず、高校入学時のクラス分け試験としての活用です。それまでは英語科教員が試験問題を作成し採点していましたが、TOEIC Bridge L&Rに切り替え、作問と採点の負担が解消されました。試験監督についても教員が担っていたのをIIBCからの派遣に任せることができ、業務のスリム化に大きく寄与しています。クラス分け試験は、中等部3年間の英語学習の最終的な到達目標として位置付け、TOEIC Bridge L&Rを軸とした指導を展開しています。その指導の一環として、TOEIC Bridge L&Rを中等部3年の夏期学習会のプログラムに資料2のように組み込み、受験させています。

(資料 2)

	7月25日(月)	7月26日(火)	7月27日(水)	7月28日(木)
7:30	7:30 登校学習!!			
8:30	開校式	英語科アドバイス SHR	数学科アドバイス SHR	国語科アドバイス SHR
8:50	自学習①	自学習②	自学習③	自学習④
9:35	自学習⑤	自学習⑥	自学習⑦	自学習⑧
9:45	自学習⑨	自学習⑩	自学習⑪	自学習⑫
10:30	自学習⑬	自学習⑭	自学習⑮	自学習⑯
10:40	自学習⑰	自学習⑱	自学習⑲	自学習⑳
11:25	英語読書会	自学習㉑	自学習㉒	自学習㉓
11:35	英語読書会 音声ドリル	自学習㉔	自学習㉕	自学習㉖
12:20	昼食			
13:05	TOEIC Bridge®	「3 minutes」	卒業生 VS 中3生	納涼
13:30	ガイダンス (20分)	一斉練習大会	パネルディスカッション	納涼
14:00	受験 (60分)			納涼
14:45				納涼
15:20				納涼

夏のスコアを基にクラス分け試験での目標スコアを各自設定してもらい、目標到達に向けてその後の8カ月間で何をすべきか考えさせ、英語学習に対する動機付けを図っています。さらに、冬休み前の12月にも希望者対象でTOEIC Bridge L&Rを実施して目標到達までの経過を確認します。また、年度最後の期末試験後の終業式までの数週間は授業で『TOEIC Bridge® Listening & Reading 公式ワークブック』を扱い意識付けを図ります。この公式問題集は、リスニングでのディクテーションや、要点をまとめるリーディングのタスクなどもあり、大変実用的だと感じています。

TOEIC Bridge L&Rは、あくまでも普段の英語学習の成果を測るものという位置付けです。普段の授業内容、教科書の内容、その基礎事項習得の積み重ねの延長線上にクラス分け試験のTOEIC Bridge L&Rがあり、普段の学習が中心というスタンスです。また、英語へのモチベーションが高い中等部1、2年生にも積極的に受験を推奨しています。

今年の3月にクラス分け試験でTOEIC Bridge L&Rを受験した現高等部1年生の声を紹介します。受験した感想については、「自分の本当の実力がわかった気がする。自分の課題が明確になった」との回答もあり、英語学習の到達度の確認に機能したことが伝わってきます。また、「もう一度受けたいと思える試験だった」「リーディングの題材が身近で楽しく解けた」「考えていて楽しい問題が多く、面白かった」「中学までの学習でも高得点を狙え、高校への橋渡しに最適」といった感想からは、高校入学前に実施するレベルとして最適かつ抵抗なく受験できていることが見て取れます。

受験後の英語学習への意識の変化としては、「英語への苦手意識が少し緩和された気がする」などと、英語学習に対する意識、モチベーションが向上したという声もありました。「長文をすらすら読めるように速読を意識して勉強したい」「普段の勉強より実践的な感じがした」「オンライン英会話などをもっと活用していきたい」「アメリカ英語、イギリス英語の発音の違いを意識したい」といった回答もありました。英語学習に

おける自身の課題認識にも役立ち、その後の学習の指針を得るきっかけとしても有用なものになっているようです。

■ 中等部からの高等部への接続に TOEIC® Programが上手く機能

高等部でのTOEIC L&Rは資料3の通り、1～3年生の希望者を対象に年2回の実施です。申し込み時には公式問題集も購入してもらい、意識付けと準備を入念にして受験させています。大学受験での外部検定利用入試や、推薦入試でも利用できるというメリットもありますが、大学入試共通テストとの類似性を強調して、共通テスト対策として有効だということを示し、受験を奨励しています。

(資料 3)

<ul style="list-style-type: none"> ・高等部では全学年を対象に年2回(6月,11月)に希望者を募って実施。 ・申し込み時に、公式問題集もセットで販売し、意識付けと準備を十分に行わせたいので、受験させる。 ・高等部生には、大学受験において外部検定利用入試や推薦入試で利用できるというメリットのほかに、大学入試共通テストとの類似性を強調し、共通テスト対策として、1年次より積極的に受験を奨励。
--

今年の6月にTOEIC L&Rを希望し受験した現高等部1年生の声を紹介します。受験理由として「3月のTOEIC Bridge L&Rのリベンジをしようと思った」「TOEIC Bridge L&Rの参考スコアで高い得点が予想されたため」といった回答があり、TOEIC Bridge L&RからTOEIC L&Rへの接続がうまく機能していることが伺えます。その他「大学受験でも使用される試験で英語力を測りたかった」「将来就職する際に役立つと思った」という理由もありました。

続いて、受験後の英語学習に対する意識変化についての回答です。「問題の難易度の幅が広く、解いていて楽しかった」「TOEIC Bridge L&Rよりも単語が難しく、単語力を高めたいと思った」「普段から英語をより聞き、単語をさらに勉強しなければと思った」「毎日英語に触れることが重要だと感じた」。TOEIC Bridge L&R受験後の感想と同様に、英語学習における自身の課題を認識して今後の学習の指針を見出し、英語学習へのモチベーションがより高まっている様子が分かります。

本校のTOEIC Programの活用は実はまだ1年目です。今後、スコアデータの蓄積を進めるとともに、外部模試の英語の成績や、他の検定試験、共通テストでの得点や大学入試の結果との相関関係を分析するなど活用し、教科指導および受験指導に生かしていきたいと考えています。



あなたが世界をつなぐ
あなたと世界をつなぐ

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

IIBC公式サイト <https://www.iibc-global.org>

【東京】〒100-0014 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル TEL.(03)5521-5901
【名古屋】〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル TEL.(052)220-0282
【大阪】〒541-0059 大阪府大阪市中央区博労町3-6-1 御堂筋エスジービル TEL.(06)6258-0222

ETS, the ETS logo, PROPELL, TOEIC and TOEIC BRIDGE are registered trademarks of ETS, Princeton, New Jersey, USA, and used in Japan under license. Portions are copyrighted by ETS and used with permission.

本資料の無断転載・複製を禁ず (2022年10月)